



# AL授業実践レポート Vol.10

文責：森内

「主体的対話的で深い学び」の実現へ。

授業改革 2 年目の今年は、さらなる手法の研究や授業展開の改良に挑戦する年です。今号は明日から使えるアイデア集としました。A4, B4, A3 サイズの用紙を用い、発問やキーワードを提示しながら授業を進める KP 法（的手法）について、複数の実践例をご紹介します。

## 「KP 法」

紙芝居によるプレゼンテーション法。スライドとは異なり、PC やプロジェクターといった ICT 機器を使わずに、手書きや word で作成できる。そのため、生徒の発表ツールとしても活用可能。

### 〈基本のやり方〉

A4 の用紙 / 1 枚に書くのは 20 字程度まで / 10~15 枚が 1 セット

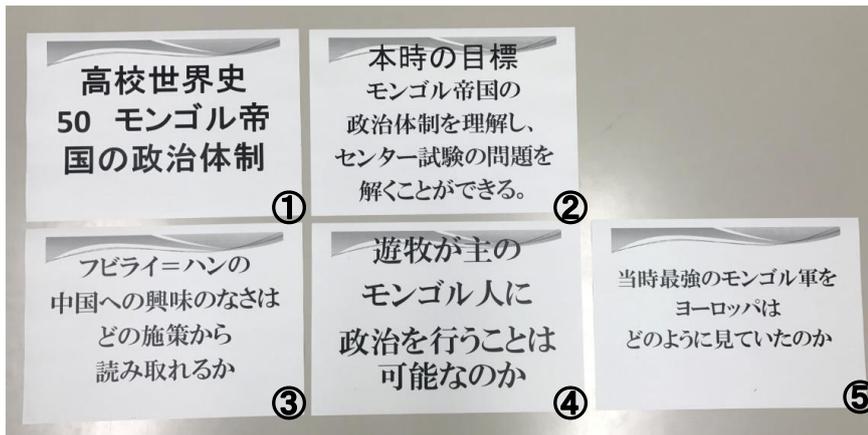
ボードに貼りながら話していく (1 セット 5 分程度)

もともとはプレゼンテーションの手法の一つであるが、伝える情報の無駄をそぎ落とし精選することになるので、思考整理法にもなる。

昨年度 3 月末の授業研修時にご紹介した日本史の杉山比呂之先生 (専修大附属高) も実践されていました。

※今回は、純粋な KP 法だけでなく、「キーワードを書いた用紙を何らかの形で活用する」という大きな括りでまとめています。

## 【事例 1：安部先生 / 高 1 世界史】

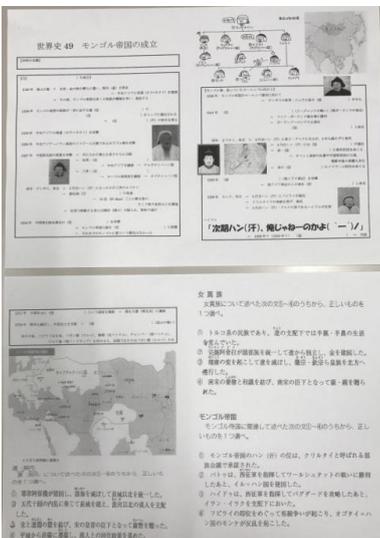


① 単元、② 本時の目標、③ 本時の目標をクリアするためのメインクエスチョン、④ 授業プリント (キーワード穴埋め) の解答



### 〈授業の進め方〉

①~⑤は授業冒頭で掲示→授業プリントに従って⑥~随時提示しながら講義 20 分→該当範囲のセンター試験の問題 3 問 (授業プリントに提示) を解く→グループワークで解答解説し合う→設問の正答のみ提示して終了



↑授業プリントは、表が講義内容と連動、裏は入試問題。

### 〈教えて安部先生！～なぜ KP 法を始めたんですか？～〉

「昨年まではスライドを使った授業でした。もともと板書にかかる時間があったという思いで始めたスライド形式でしたが、「どんどん消えてしまう」「授業のテンポについてこれない生徒がいる」点が懸念事項でした。**KP 法は、内容が残るので一覽で可視化されるのが魅力**です。また、この手法に切り替えたことで、今まで自分のスライドにはいかに無駄な情報が多かったかわかりました。歴史の教員は予備知識をたくさん提示することに意義を感じてしまう部分がありますが、KP 法だと**生徒に提示する情報も洗練**されました。多くの先進的な歴史の先生方の取り組みを聞いても、やはり講義をゼロにするというのは現実的ではありません。だから、**生徒の「主体的対話的で深い学び」の時間を毎時間確保するために、どこまで講義の時間を短くできるかが課題**です。まだ模索中ですが、生徒の反応もよく (学んだ内容が授業内で即大学入試に直結するため、解ける喜び・わかる喜びを体感している)、**特に上位クラスでは手応え**を感じています。」  
※安部先生は、一斉講義形式の授業からいち早く脱し、スライドを導入して視覚的情報の組み合わせと生徒に「考える」時間を与える授業展開に切り替えられました。そして今年、さらに進化した授業を展開されています。

